

長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査報告書

長浜曳山祭の芸能

財団法人長浜曳山文化協会

滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科

刊行によせて

長浜の町衆たちが江戸時代より連綿と伝えてきた長浜曳山祭のはじまりは、四三〇年前の羽柴秀吉による長浜城と城下町の建設にまでさかのぼります。秀吉が始めた「太刀渡り」という鎧武者の歩行渡りに、秀吉の男子誕生の祝い金をもとに町衆たちが建造した曳山による山渡りが加わったと伝えられています。その後、浜縮緬などの産地であり交通の要衝でもある長浜は、経済的にも文化的にも大きく発展し、現在に見る華やかな曳山ができあがり、曳山狂言（子ども歌舞伎）、囃子（シャギリ）といった伝統芸能が培われました。

この祭礼の賑わいの様子はすでに江戸時代の地誌にも登場し、祭りが地域づくり、文化づくりに欠かせないものであったことがうかがわれます。現在でも常に祭りが町の人びとの話題の中心であり、曳山祭を支える人びとのつながりと、伝統ある祭りを絶やしてはいけないという思いは、まちづくり・人づくりの大きな原動力となっています。

このたび、国庫補助により作成した本報告書は、長浜曳山祭のなかでもとくに芸能文化の伝承のあり方と、祭りのもつ地域活性化の仕組みを明らかにしています。これにより曳山祭への理解がより深まり、次代へと継承されていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、この報告書作成に携わっていただいた記録作成委員会の各委員、滋賀県立大学の先生や学生の皆さま、そして調査にご協力いただきました山組および囃子保存会の皆さまに深く感謝の意を申し上げます。

平成二四年三月二〇日

財団法人長浜曳山文化協会

理事長 高橋 政之

いぬぐわひ

長浜曳山祭は、滋賀県を代表する祭礼であり、ことに子どもたちによる曳山狂言は全国に広く知られています。このたび財団法人長浜曳山文化協会からの委託により、この伝統ある祭礼の曳山狂言やシャギリ（囃子）についての調査に、われわれ滋賀県立大学を中心としたメンバーがかかわる僥倖を得たことを心より感謝しております。

調査は祭りの当日だけではなく、長期にわたる稽古から始まり、四月の祭りのあとも補足調査を継続してきました。その調査の結果をこのように報告書の形で世に送り出すことができたことを、まずは調査参加者とともによろこびたいと思います。調査の過程では山組の皆様をはじめとする多くの方々のご協力を得ました。また財団法人長浜曳山文化協会の皆様には、調査の各場面で心温まるご指導を賜りました。皆様のご協力に対しても心より感謝の意を表したいと思います。

本報告書の編集にあたっては現在の祭りの姿を忠実に描写することを第一に心がけました。その長い歴史のなかで、長浜曳山祭は大きく変化をしてきました。今後もさまざまに変化しながらもこの祭りは次代へと継承されていくことでしょう。現在の祭りの姿をありのままにとらえた本報告書が、今後長浜曳山祭の発展と継承にいささかでも貢献することがあれば幸甚です。

平成二四年三月二〇日

滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科

教授 市川 秀之

例言

一、本書は平成二二年・二三年度に実施した「長浜曳山子ども歌舞伎および長浜曳山囃子民俗調査記録作成事業」の報告書である。

二、調査は財団法人長浜曳山文化協会より委託された公立大学法人滋賀県立大学が、人間文化学部地域文化学科教授市川秀之および同講師武田俊輔を担当者とし、受託研究として実施したものである。財団法人長浜曳山文化協会は事業の実施にあたり、平成二二年度地域伝統文化総合活性化事業による文化庁の委託と平成二三年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業による国庫補助を受け、長浜曳山祭伝統芸能文化調査記録作成委員会の指導を得た。

【長浜曳山祭伝統芸能文化調査記録作成委員長】植木行宣

【同委員】市川秀之・中澤成晃・西川丈雄・長谷川嘉和・梁島章子・山路興造（五〇音順）

三、調査は長浜曳山祭の芸能に着目し、今後の継承に資するため曳山狂言およびシャギリの現状を把握することを主題とした。その際、調査班を四つに分け、平成二三年長濱八幡宮の春季例大祭における出番山を中心とした調査を実施し、その他の山組についても適宜調査した。周辺村落と曳山祭との関連についても調査を実施した。調査はおおむね以下の日程で実施した。

平成二三年一月 二二年度調査計画策定・全体打合せ会議開催

同年二月・三月 シャギリ・曳山狂言稽古の参与調査・聞き取り調査

同年四月 曳山狂言稽古・線香番・裸参り・祭礼などの参与調査・

聞き取り調査

同年八月 二三年度調査計画策定・全体打合せ会議開催・報告書

原稿作成

同年九〜十二月 周辺村落での聞き取り調査・報告書原稿作成
平成二四年一月 山組での聞き取り調査・報告書編集
同年二月・三月 報告書編集

五、調査は以下の体制で実施した。

【受託研究担当者】市川秀之・武田俊輔（ともに滋賀県立大学）

【調査員】浅野久枝（京都精華大学・首都大学東京非常勤講師）・東資子（滋賀県庁県政資料室）・上田喜江（愛荘町立歴史博物館）・小林力（滋賀県立大学大学院生）・中野洋平（国際日本文化センター）・西川丈雄（財団法人曳山文化協会）・濱千代早由美（皇學館大学非常勤講師）・藤岡真衣（関西大学大学院生）

【調査補助員】中川永・高木唯・鎌倉千穂・喜志弘基・後藤恵理・瀬在優実・宮下侑子・向井渉・村松美咲・山崎晃代・井上共世・西田葵（以上、滋賀県立大学学部生）・西野文彦（京都学園大学学部生）・土田良太（仏教大学学部生）

【財団法人曳山文化協会事務局】川崎節夫・中島誠一・橋本章（平成二三年九月末まで）・秀平文忠（平成二三年一〇月から）・小池充・大塚映明・川村典子

六、本報告書は、曳山狂言およびシャギリについて現状を記述した報告編および、これに考察を加えた論考編からなる。

七、報告書全体の編集および報告編のとりまとめは、小林力（滋賀県立大学大学院生）が市川・武田の指導のもと担当し、王京徽・大平史乃（以上、滋賀県立大学大学院生）・瀬在優実・鎌倉千穂・山崎晃代（以上、滋賀県立大学学部生）がこれを補助した。また財団法人曳山文化協会職員も文章の校正などをおこなった。

八、論考編の執筆分担は、目次に記したとおりである。

目次

刊行によせて・ごあいさつ

例言

目次

《報告編》

第一章 長浜曳山祭の概要

第一節 長浜曳山祭の概要

第一項 歴史

第二項 行事内容

第二節 長浜曳山祭の組織

第一項 伝統的な組織

總當番 3 山組 3

第二項 祭りを支える様々な人々と組織

長浜曳山文化協会 12 伝承委員会 12 三役修業塾 12

長浜曳山祭囃子保存会 12 若衆会 12 山組の相互協力 12

ボランティア 13

第二章 曳山狂言

第一節 現状の曳山狂言

第一項 役職

第二項 外題の決め方

第三項 役者の決め方

第四項 三役の決め方

戦後の三役 27

第五項 衣装屋・鬘屋・顔師・小道具屋の決め方

第六項 稽古までの行事

役者依頼 42 役者決め・衣装および鬘合わせ 45

稽古場設営 50 祭りまでにおこなう主な集会 53

第七項 稽古

第八項 役者親

第九項 演出

第一〇項 三役修業塾

第三章 囃子（シャギリ）

第一節 囃子の経緯

第一項 長浜曳山祭囃子保存会発足の経緯

第二項 長浜曳山祭囃子保存会の曲を伝承する山組など

第三項 独自の曲を伝承する山組

第四項 長浜曳山祭囃子保存会の曲と独自の曲を伝承する山組

第二節 現状の囃子

第一項 組織

第二項 練習

第四章 平成二三年の長浜曳山祭

第一節 平成二三年の長浜曳山祭の芸能

第一項	曳山交替式	145
第二項	線香番	147
第三項	裸参り	150
第四項	起し太鼓	151
第五項	御幣迎え	158
第六項	神輿渡御	158
第七項	籤取り式	158
第八項	曳山狂言	160
準備	狂言 舞台周りの若い衆	160
	舞台後見	173
	シャギリ	176
	千秋楽	179
第九項	登り山	182
第一〇項	夕渡り	186
第一一項	春季例大祭	187
第一二項	朝渡り	187
第一三項	太刀渡り	188
第一四項	翁招き	188
第一五項	神輿還御	189
第一六項	戻り山	189
第一七項	御幣返し	190

《論考編》

長浜曳山祭と周辺村落

—長浜曳山祭囃子保存会以前のシャギリを中心に—	(上田喜江)	191
現在おこなわれている周辺村落の囃子	(東 資子)	200
シャギリの指導方法と伝承母体の変化	(小林 力)	207
周辺地域の曳山狂言(曳山子ども歌舞伎)	(橋本章)	213
長浜曳山祭における三役の変遷とネットワーク	(中野洋平)	220
祭りと女性	(東 資子)	225
人材育成・芸能継承のための組織	(市川秀之)	232
戦中・戦後の曳山祭	(西川文雄)	237
長浜曳山祭における社会的文脈の流用		
観光／市民の祭り／文化財	(武田俊輔)	245